

(写真・文 太田祥作)

## エゾミドリシジミ

(学名 : *Favonius jezoensis*)

【チョウ目シジミチョウ科】



▲ 翅を開いた雄（6月、布沢地区にて撮影）



▲ 川辺で吸水する様子（6月、長浜地区にて撮影）

「ゼフィルス」と呼ばれるシジミチョウの仲間がいます。ゼフィルスは「<sup>にしかぜ</sup>西風」を意味するギリシャ語で、成虫は年に一度（多くは初夏）だけ出現、繁殖し、<sup>ほんしよく</sup>卵で越冬するグループです。国内には25種のゼフィルスが知られています。幼虫は、種によって異なる<sup>こうようじゆ</sup>広葉樹の葉を<sup>えさ</sup>餌とします。身近な種にはアカシジミやミズイロオナガシジミが挙げられ、これらはコナラなどの林で普通に見られます。水辺のハンノキ林ではミドリシジミ、ブナ林ではブナを餌とするフジミドリシジミが生息しています。

今回紹介するエゾミドリシジミは、只見町の山地でよく見られるゼフィルスです。和名に「エゾ」とつくのは最初に北海道札幌市で発見されたためですが、日本の本土部に広く分布します。寒冷地を好み、北日本には多産するものの、西南日本では山地に限って生息します。

エゾミドリシジミはミズナラやコナラを餌としているため、ナラ類の<sup>にじりん</sup>二次林、すなわち、かつての薪炭林にも生息しています。成虫は、活動が活発化するとされる午後3時から5時頃に探せば見つけやすいでしょう。雄の翅の表（内側）は、写真のようにメタリックな青緑色に輝きます。

町内では2010年代以降、ミズナラやコナラが枯れるナラ枯れの被害が<sup>まんえん</sup>蔓延しています。これにより、ナラ類を餌として利用するエゾミドリシジミも影響を受けているかもしれません。今後の個体数の変化が注目されます。

### 只見町ブナセンターからのお知らせ

下記イベントを開催しております。詳細は只見町ブナセンター（電話0241-72-8355）までお問い合わせください。

企画展「ブナ林の木に生かされる 雪国のブナを極めるⅡ」

会期：2024年11月9日(土)～2025年6月30日(月)

場所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー